

令和元年度 南アルプス市立若草南小学校学校関係者評価書

令和2年1月21日（火）
学校関係者評価委員会作成

第2回学校関係者評価委員会

実施日：令和2年1月21日（火）午前10時20分～

場 所：若草南小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員・教職員

小野 寿之（藤田区自治会長，学校評議員）

飯野 章（浅原区自治会長，学校評議員）

深澤 美香（主任児童委員，学校評議員）

河西 巧輝（PTA 会長，学校評議員）

石川恵利子（PTA 副会長，学校評議員）

河野 瑞穂（校長）

時田 直人（教頭）

青木 英明（教務主任）

1 学校側から提案の内容

- ①学校関係者評価の趣旨
- ②本年度の学校経営方針並びに現状
- ③学校評価の方法について
- ④評価の全体的な傾向について
- ⑤児童アンケートの内容と結果について
- ⑥教職員自己評価シートの内容と結果について
- ⑦まとめ…学校評価から見られる成果や課題，ならびに改善策について

2 協議された主な内容

- ①学校自己評価についての全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③今後の改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

教職員自己評価の結果は，すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め，学校長の指導の下，学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

また，全校児童のアンケートの集計結果は，全10の質問項目中，肯定的評価が90%以上の項目が7，80%以上の項目が2，77.2%の項目が1であり，全体的に肯定的評価が多い。児童の学校生活は概ね満足していると考えられる。引き続き一人ひとりの児童を大切にしたい指導を充実させ，主体的に学ぶ児童の育成の取り組みに期待したい。

II 第2回学校評議委員会の中で出された主な意見

学校生活について

○音楽会は感動的であった。児童の協力する姿、学年のまとまりが感じられた。練習の積み重ね

があることが分かった。

- 学校の中に様々な活動が入ってきて大変であるが、一人ひとりに目をかけのびのびと学校生活を送ってほしい。
- 運動会では、集団の力が素晴らしかった。個が鍛えられ集団が高まる、集団が鍛えられ個が強くなっていく。行事を通して集団の力や個の力が伸びていくと感じる。
- 6年生の成長がとても感じられる。一人一役を担い下級生を指導している姿がある。一人ひとりが目標を持って活動していることが学年の成長につながっている。
- 子どもが楽しそうに活動している。先生の発問への食いつきが良い。先生の努力が見られる。子供の興味関心を高め、伸ばして欲しい。
- 子どもが学校に楽しく通えることが一番大切だと感じる。それに伴い勉強も楽しくできてくるのではないか。

学習について

- 児童に「学びノート」を紹介する取り組みを行っている。学習した内容やノートの書き方など友達のノートを参考にすることで、自分の頑張りにつながっていく。
- 学びノートや漢字ノートを丁寧にチェックしていただけることは、保護者としてありがたい。先生がきちんと見てくれることが子どもの頑張りにつながっていく。
- 児童の授業に取り組む姿勢がとても良い。今日の授業では、1年生が親や祖父母と一緒に昔の遊びを表情豊かに活動していた。2年生では、大型テレビを使い自分の成長を振り返っていた。友達の発言に拍手をしたり雰囲気がとてもよかった。
- 学年や学級経営が解放されている。言いたいことが言える、何を言っても笑われないみんなが仲間というのびのびとしたクラスの雰囲気が根底にある。
- 高学年児童の授業は考える場と発言する場とメリハリがあってよい。高学年児童の集中力が高かった。

家庭・地域について

- 「宿題なしの日」という報道があったが、子どもの実態として宿題に対する意識とはどのくらいあるのだろうかという質問があった。小学生段階では保護者の協力は不可欠である。自ら進んで学習する意識の高い児童もいるが、学校から課題を与え基礎基本の定着を図っていくことは大切である。
- 小学生の段階から、宿題についてきちんとした習慣をつけることを学習させていく必要がある。
- 先生方は日常の業務が忙しい。家庭もライフスタイルの変化により勉強を見てあげる時間の確保もなかなかとれない。基本的な生活習慣の中で習慣化されるとよいと思う。
- 宿題や家庭学習では、丸付けや励ましの言葉で子供たちのやる気を引き出している。
- 家庭での励まし、毎日の積み重ねが定着につながっていく。
- 夏の子どもクラブ主催の旅行にはたくさんの児童が参加した。その他の活動においても子供たちの参加はあるが、もう少し参加して欲しい。自治会への未加入世帯の問題もあるが。

まとめの意見

- 社会人になってからのコミュニケーション能力が欠けていることを心配している。学習は優秀であるが、自己主張できないなどの問題が見られる。困ったことがあるとやめてしまう若者もいる。そういうことを考えると、縦割り班の活動など積極的に取り入れて欲しい。
- 高校生くらいになっても社会情勢を知らない生徒がいる。新聞をとっていないとかテレビはバラエティーしか見ないなどの背景がある。小学生がのびのびとすくすく育ってほしい。壁にぶつかった時、それを乗り越えていく力をつけて欲しい。
- ゲーム時間が長いことは問題である。ゲームからはコミュニケーション能力は育たない。目と目を合わせ、面と向かって話をしない世代が生まれている。日常の会話がなくなり一方通行になっている。社会に出て必要なコミュニケーション能力が育っていかない。ゲームなどの場面

でしか表現できないのでは困る。つまづきを乗り越えられる自立した大人に育ってほしい。

Ⅲ今後の改善策・重点課題について

学校生活について

- わかる授業に向けての改善を進め、「授業が分かる、授業が楽しい」と思えるよう一人ひとりの児童を大切にされた授業を展開する。学習意欲が高められる工夫を積み重ねる。
- 家庭学習の定着に向け、保護者の理解と協力を得る中で進めていく。
- 児童一人ひとりが自己肯定感を持ち、居心地の良い学校づくりに努める
- コミュニケーション能力の育成に努める。困難に立ち向かい解決していく力をつけていく。
- 困ったことなどがある場合、誰にでも相談できる体制づくりに努める。学校は、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で臨む。

家庭・地域について

- 家庭学習の習慣についての取り組みを進める。
- 地域行事への積極的な参加を行っていく。
- ゲームについては、家庭内でルールを決める。人と人との会話の中でコミュニケーション能力が育っていく。